法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-17

法政大學史學會々報 5巻 : 表紙, 巻頭言 / Cover, Foreword : 5

藤井, 甚太郎 / Fujii, Jintaro

(出版者 / Publisher)
法政大学史学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大學史學會々報 / 法政大學史學會々報
(巻 / Volume)
5
(開始ページ / Start Page)
0
(終了ページ / End Page)
2
(発行年 / Year)
1953-03

Hosei University Repository

巻頭言

法政大学史学科の卒業生及学生諸君へ

教授　藤井甚太郎

法政大学史学科は、創立以来旧制二回、新制三回の卒業生を世に送り、数十名の専門学科履修学生を擁してゐる。特に日本史専攻の大学院は、学生も略定員を越してゐる。自から此の科の洋々たるを思はしむるのである。

特に斯学科の学生諸君は、所謂二部学生であつて、既に社会に於いて尊敬すべき相当の地位にある人々であつて、半面より云へば生活の保証せられてゐる人々である。して見れば、公務の余暇には斯の学問に精進するの余裕ある人と云はねばならない、従来文科系諸学科卒業生は、生活には割合に恵まれないで、大学に於いて履修の学科を、尚社会に出てゝ専心継続研究するには格段の努力を要したのであつた。此点に於いて、本学科の卒業生諸君は既に人生の第一関門を突破し得られてゐる。この上は身体の健康に留意し、年月を急がず、たゞ一途に専修の学問に精進せらるゝなれば、大成せらるゝは期して待つべきものがある。故に小生は諸君に期待する処が、頗る大なるものである。科暦未だ若く、卒業生は其数に於いて敢て誇るに足らないとしても、年と共に数は倍加するであらう、従つて社会上に於いて、又学界に於いて、法政大学史学科閥は、好むと好まざるとに係はらず、自ら形成せらるゝであらう。今日の世態に於いては、個人の力には限度がある。大を成さんとするには、衆智を集め、群力を伸べて初めて達せらるべきである。我々は同系の衆力を結集して、学に精進しなければならない。

Hosei University Repository

今日の学界は実に百花燎乱の思があると共に、その半面、憂ふべき学風の存在を認めなければならない。我が法政大学史学科の学風は、今日に走らず、古に拘らず、中正の学風を樹立して進みつゝある。我々は将来と雖もこの鉄則の下に、研究怠らず進むことを期してゐる。諸君に於いても、その社会にあると、将又学窓にあるとを問はず、この学風を堅持せられなければならない。これが法政大学史学科の学風に対して、社会及学界の信用を保つ所以であると信ずるのである。

たゞ遺憾と思ふ点は、創設未だ浅く、研究史料類幷に研究機関の活動の充分ならざることである。我々は同窓諸君の為に研究の資料を充実し、又成果発表の機関を具備し、聊かの遺憾なからしめんことを期して、研究室の機能を十二分に発揮せんと念願し、努力に吝ならざるものがある。尚

一　研究室に於ける史料図書の充実。特に内外専門雑誌の整備
二　法政大学史学科専門学術研究報告書年報の刊行
三　学界動向（例へば諸専門雑誌及紀要に発表せらる論文題目等）の報告
四　法政大学史学叢書の刊行
五　研究発表会の運営
六　実地踏査研究旅行の開催
七　法政大学史学科研究資金の設置

等々が、今行はれ、又将に行はれんとする事業である。